

2021年2月27日（土）

日本英語教育学会・日本教育言語学会

第51回年次研究集会

現場のことば vs. 脱現場のことば —日本語と英語の基本理解と英語教育—

植野貴志子（東京都市大学）

井出祥子（日本女子大学）

本発表の意義

- ある中学校英語教師の大学院入試の面接でのことば：
日本語と英語の違いの根本にある「これだ！」というものを生徒に教えてあげたい。これが分かれば、英語学習は楽になるはず。それを探す研究をするために大学院で学びたい。
- 発表者らは、その課題に応えるべく、日英語比較の実証的・理論的研究をしてきた。本発表は、第一弾として、「日本語は、現場のことば」vs.「英語は、脱現場のことば」という基本理解について考察する。

本発表の主張

新村（2021）

- 日本語は、「現場のことば」
- 英語は、「脱現場のことば」

- 現場のことば　：事柄を**具体的**にとらえる
（虫の目、蛇の視点）
- 脱現場のことば：事柄を**抽象的**にとらえる
（神の目、鳥の視点）

（金谷 2019；森田 1998）

日本語と英語の比較

1. 自分・相手を指すことば
2. 事物を指すことば
3. 時を表すことば

自分・相手を指すことば：英語

	単数	複数
一人称	I	We
二人称	You	You

中学1年生教科書 *Sunshine 1*による説明

「私は～です」は<I am ~.>で、

「あなたは～です」は<You are ~.>で表します。

脱現場のことば：“I”と“You”

1. “I”は、話者自身，“you”は、話者が対峙する相手を指す。
2. “I”は、“you”とともに、特定の個人に関わることのない**抽象的**な記号である。
3. “I”は、“you”とともに、他の全ての語の境域を超えたところに位置している。

4. 話者は、“I”とすることによって自身を「主語」 (subject) の位置に置くと同時に、「主体」 (subject) となって言語を使う。
5. “I”は、「主体性」 (subjectivity) を伴う。
6. 主体性とは、経験の総体を**超越した心的統一**のことである。

(Benveniste 1971)

→ “I”は、**抽象的、脱現場のことば**

2. 事物を指すことば： これ・あれ・それ / this, that, it

A: **This** is my bag. Is **that** your book?

B: Yes, **it** is. / No, **it** isn't. (*Sunshine 1*)

Sunshine 1 による説明：

「これは・・・です」は <This is・・・>
「あれは・・・です」は <That is・・・> で
表します。

this は近くのもの、**that** は遠くのものを指します。
前にでたものを指して言うときは **it** を使います。

英語と日本語の「近くのもの」「遠くのもの」は同じか？

{This is, That's, It's}
not a cow.



何描いてるの? 牛



■は
牛じゃないわ..

あのね、
ほく本物の牛
見たことないの..



犬みたいよ..

谷川俊太郎訳

{これ、あれ、それ} は
牛じゃないわ..



何描いてるの?

牛

これは
牛じゃないわ..

あのね、
ほく本物の牛
見たことないの..

犬みたいよ..

谷川俊太郎訳

英語・日本語母語話者（各55名）に対する指示詞選択の調査結果（新村 2021）

{ **That's (69%)** / **This is (28%)** / It's (3%) } not a cow.

{ It (75%) / That (17%) / This (8%) } looks more like a dog.

{ **これ (100%)** }は牛じゃないわ…
犬みたいよ

that: 心理的遠 (medium focus)
this: 空間的近 (high focus)
It : 単なる旧情報 (low focus)

事物を指すことば

日本語

これ：自分に近い事物

あれ：自分・相手から遠い事物

それ：相手に近い事物

指示対象を**現場**に位置付け、**具体的距離**に応じて指す。

英語

this : high focus

that : medium focus

it : low focus

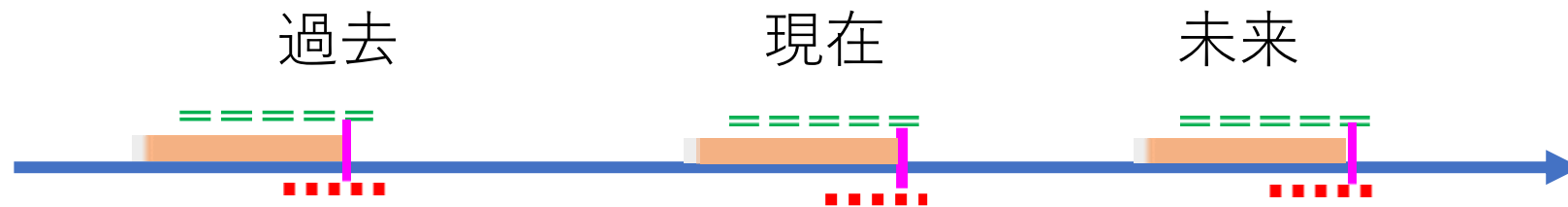
(Strauss 1993; 新村 2021)

指示対象に対する具体的距離だけでなく、心理的距離など**脱現場的な抽象的距離**に応じて指す。

3. 時を表すことば：英語

- 時制 : 過去・現在・(未来) 3種
- アスペクト : 単純・進行・完了・完了進行 4種

$3 \times 4 = 12通り$ (Strauss et al. 2018)



- 時間軸上に時を表現する。
- 時間軸は、抽象的・脱現場的なもの

文科省検定教科書 中学3年生用 *Crown 3*

時間軸上：

- ① 現在形 : ~します
- ② 現在進行形 : ~しています
- ③ 過去形 : ~しました
- ④ 過去進行形 : ~していました
- ⑤ 現在完了形 :
(継続) (ずっと) ~しています
(完了) したところです
(経験) したことがあります
- ⑥ 未来を表す :
(be going to) ~するつもりです
/ きっと ~する
(will) ~でしょう / ~しようと思う

Review ● 時制

これまで出てきた、現在・過去・未来を表す表現を復習しましょう。

① 現在形「～します」 いつも(習慣的に)すること



過去 現在 未来

② 現在進行形「～しています」 動作をしている最中



過去 現在 未来

③ 過去形「～しました」 過去のできごと、過去に行ったこと



3日前 現在

④ 過去進行形「～していました」 過去のある時点に行っていた動作



そのとき 現在

⑤ 現在完了形

継続「(ずっと)～しています」
過去から現在まで継続していること



4日間 現在

完了「～したところです」
ものが完了している状態



現在

経験「～したことがあります」
これまでに経験したこと



(twice 二度) 現在

⑥ 未来を表す表現

be going to ~ 「～するつもりです」「きっと～する」
予定・確実に起こりそうなこと



現在 明日

will 「～でしょう」「～しようと思う」
これから先のことの推測・意志



現在 将来 (pianist ピアニスト)

学習者の困難：抽象的な時間軸に事柄を配置すること

- 過去完了／過去

The train **had** already **left** when I **got** to the station.

- 過去進行形／過去

She **had been doing** her homework when the doorbell **rang**.

- 時・条件の副詞節

I will call you when I **get** to the airport.

(もともとは時・条件の副詞節には時制を与えない)

日本語：タ・ル・テイル

文末のタ

- {去年／今}、富士山に登った
- あ、バスが来た!

文末以外のタ

- {昨日／今／明日} 起きたとき…

ル

(もうじき) 春が来る
食べる前に、手を洗った

テイル

- {去年／今}、彼は富士山に登っている
- 彼はそのことを知っている

- 話者の確認 (タ) ・ 未確認 (ル)
- 事態の存続 (テイル)

• タ・ルは、**時を意味しない。**

- 「去年」「明日」等、**時を表すことば**を添えることにより時を表す。

(山口 1989)

→ **英語の時間軸に相当する抽象的概念はない。**

→ **タ・ル／テイルは、具体的、現場のことば**

まとめ

	日本語：現場のことば	英語：脱現場のことば
1. 自分と相手を指す	<ul style="list-style-type: none">• 現場の具体的な関係によって決まる。 （「私」⇔「～先生」；「ママ」⇔名前）	<ul style="list-style-type: none">• “I”は、話者自身，“you”は、話者が対峙する相手を指す抽象的な記号• 話者は、“I”とすることによって自身を「主語」の位置に置き、「主体」となって言語を使う。• “I”は、経験の総体を超越した心的統一としての「主体性」を担う。 → “I”は、 抽象的、脱現場 のことば
2. 事物を指す	<ul style="list-style-type: none">• 指示対象を現場に位置付け、具体的距離に応じて指す。	<ul style="list-style-type: none">• 指示対象に対する具体的距離だけでなく、心理的距離など抽象的、脱現場的な距離に応じて指す。
3. 時を表す	<ul style="list-style-type: none">• 時間軸に相当する抽象的概念はない。• 話者の確認・未確認／事態の存続をタ・ル／テイルで表す。 →タ・ル／テイルは、 具体的、現場 のことば <ul style="list-style-type: none">• タ・ルは、時を意味しない。• 時は「去年、明日」等の時のことばで表す。	<ul style="list-style-type: none">• 時制・アスペクトは、時間軸上に表現する。• 時間軸は、抽象的、脱現場的なもの• 時は、時制・アスペクトの文法形式で表す。

日本語と英語の基本理解と英語教育 現場のことば vs. 脱現場のことば

- 「日本語は、現場のことば」、「英語は、脱現場のことば」は、日本語、英語を貫く基本である。
- 日本語の論理を確認し、その上で英語がどのように異なるのかを概念的に把握させる。（例：日本語にはない時間軸が英語の時制にはある。）
- 日本語を死角に追いやるのではなく、日本語を自覚した上で、英語を駆使できるグローバル人材の育成を目指す。

参考文献

Benveniste, Emile. (1971) *Problems in General Linguistics*. University of Miami Press.

金谷武洋 (2019) 『日本語と西欧語』 講談社

森田良行 (1998) 『日本人の発想、日本語の表現』 中公新書

新村朋美 (2021 [印刷中]) 「直示表現に見る「日本語の場」と「英語の場」の違い」岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子 (編) 『場と言語・コミュニケーション』 ひつじ書房

Strauss, Susan. (1993) A discourse analysis of 'this', 'that' and 'it' (and their plural forms) in spontaneous spoken English. M.A. Thesis, UCLA.

Strauss, Suzan, Parastou Feiz, and Xuehua Xian. (2019) *Grammar, Meaning, and Concepts: A Discourse-Based Approach to English Grammar*. Routledge.

鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』 岩波書店

山口明穂 (1989) 『国語の論理』 東京大学出版社

ありがとうございました